

道徳科の充実に向けて

－「指導資料」を活用した校内研修パッケージの作成－

義務教育研修課 主任指導主事兼課長 矢田 一

主任指導主事 栄 久視

主任指導主事 高舘 裕児

指導主事 田中 賢司

はじめに

平成27年3月にこれまでの「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」（以下、「道徳科」という）として教科化されることが決定した。

昭和33年の学習指導要領において「道徳の時間」が初めて設置されて以降、校長のリーダーシップのもと、全体計画や年間指導計画により充実した授業が実践されている学校がある一方、他の教科に比べて軽んじられたり、読み物教材の登場人物の心情の読み取りのみに偏った形式的な指導が行われたりするなどの指摘もあり、「量的確保」や「質的転換」といった課題が常に叫ばれてきた。

県教育委員会においては、教科化が決定した平成27年度以降、指導と評価は一体であるとの考えのもと、兵庫県道徳教育実践推進協議会等から助言等を受け、「教員の実践的な授業力の向上」を最重要課題として取り組んできた。

具体的には、個々の教員の授業づくりについての「負担感」や「不安感」を少しでも軽減できるよう「指導資料」を作成し、平成27年度から各校に配布してきた(図1)。平成27、28年度版（以下、「指導資料①」、「指導資料②」という）は、「授業力向上」を主たる内容とし、教材が適切に分析できる「教材分析シート」、基本的な授業の構成、「授業記録」を使った授業改善のポイントなどを掲載した。平成29年度版（以下、「指導資料③」という）は、教科化にあたって多くの教員が頭を悩まされる一つと考えられる評価を主たる内容とし、評価の意義や評価に向けた児童生徒の見取り等を具体的に示した。

しかし、「指導資料」については、個々の教員にその有効性が十分に理解されず、適切に活用されていない状況が考えられる。

そこで本研究では、本年度実施した「道徳科授業づくり講座」の受講者を対象に、「指導資料」の校内研修等での活用状況等についての実態調査から、これらが適切に活用され、すべての教員の実践的な授業力が向上されることを目指し、校内研修パッケージの作成に取り組んだ。



図1 県教育委員会作成「指導資料」

1 授業の充実に向けて

(1) 道徳科の授業等の実態調査

ア 調査の概要等

調査は、当教育研修所が実施する選択研修「道徳科授業づくり講座」の受講者（小学校 168 名、中学校 63 名）を対象に、研修開始前と、研修終了後の 2 回に分けて実施した。受講者のうち、小学校 88.7%、中学校 85.7%は中堅教諭等資質向上研修の対象者である。

イ 調査の詳細

【目 的】 道徳科（道徳の時間）の授業の現状と課題を探る。

【実施日】 平成 30 年 8 月 30 日（木）

【対 象】 「道徳科授業づくり講座」受講者

【方 法】 1 回目：研修開始前 2 回目：研修終了後

【内 容】 1 回目

- ① 教科化になった（なる）ことへの「不安感」について
- ② 教科化になった（なる）ことへの「負担感」について
- ③ 「指導資料」について
- ④ 今年度参加（予定を含む）の道徳に関する研修について

2 回目

- ① 教科化になった（なる）ことへの「不安感」について
- ② 教科化になった（なる）ことへの「負担感」について

(2) 調査結果と考察

ア 調査結果

① 教科化になった（なる）ことへの不安感について 1 回目…「前」 2 回目…「後」

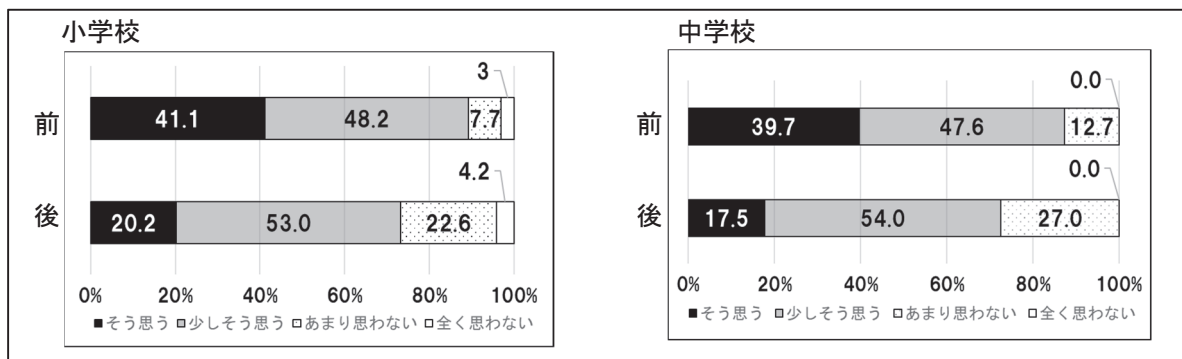


図2 「不安感」について

② 教科化になった（なる）ことへの負担感について 1 回目…「前」 2 回目…「後」

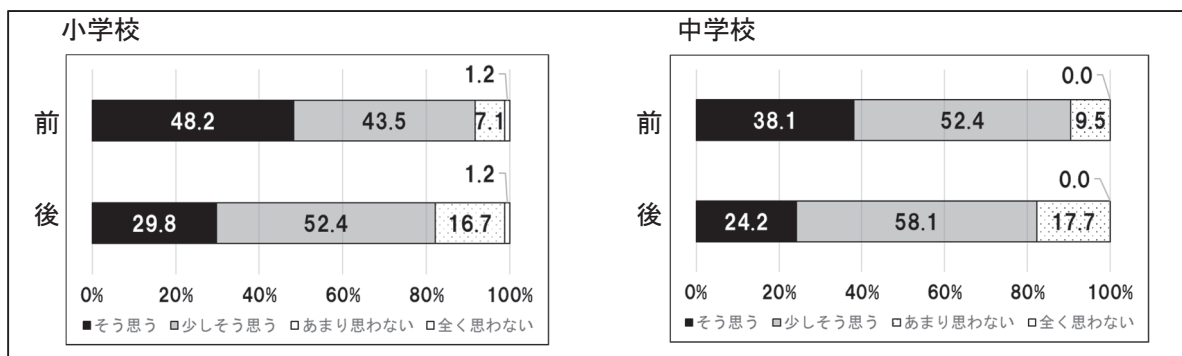


図3 「負担感」について

③ 「指導資料」について

ア 知っている イ 校内研修で活用している ウ 授業で活用している (単位：%)

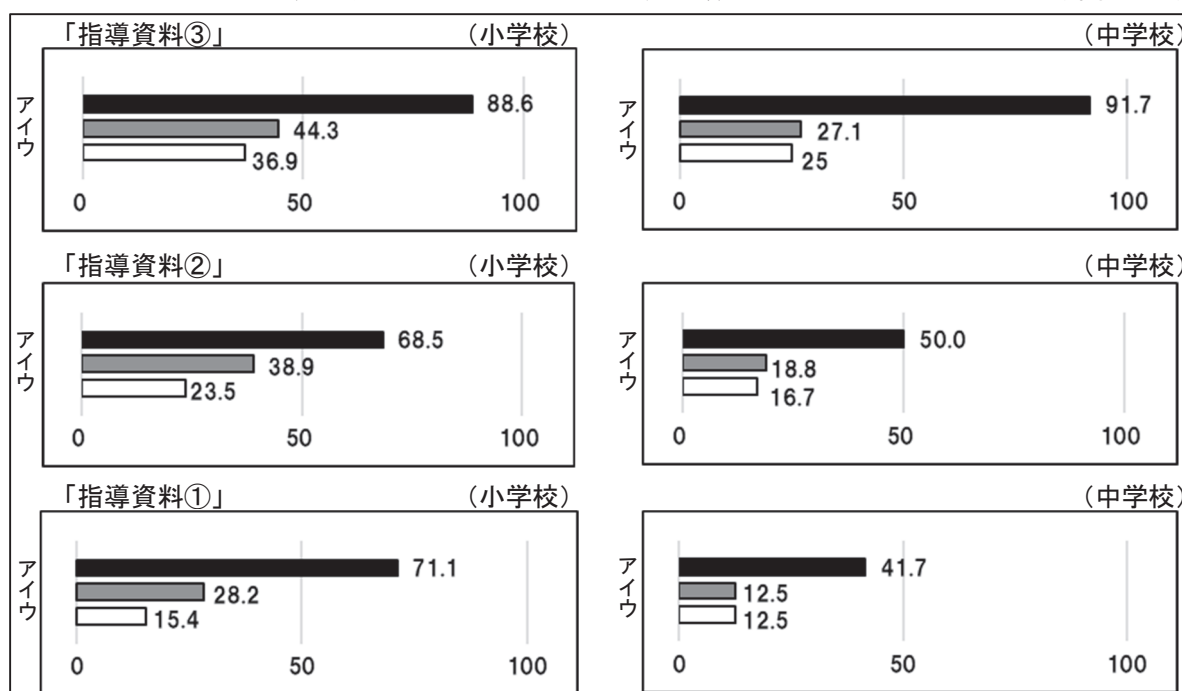


図4 「指導資料」について

④ 今年度参加（予定を含む）の道徳に関する研修について

- a 校内研修 b 市町教育委員会が実施する研修 c 教育事務所が実施する研修
d 県が実施する研修（アンケート実施の研修を除く） e その他の研修

(単位：%)

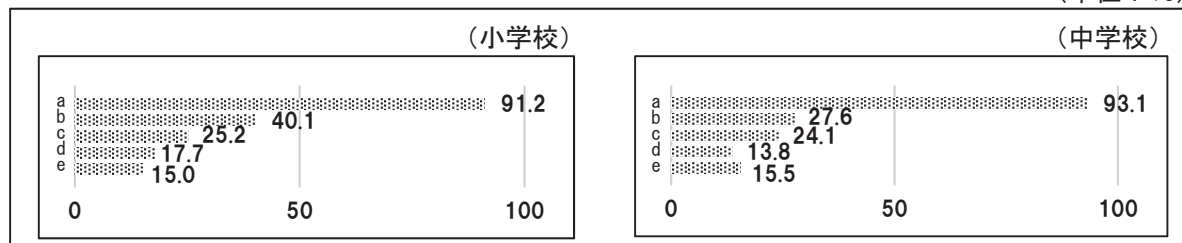


図5 今年度参加（予定を含む）の道徳に関する研修について

イ 結果と考察

図2、図3から、当教育研修所が実施した「道徳科授業づくり講座」を受講することで、「不安感・負担感」が小・中学校ともに減少していることが分かる。特に、「不安感」については、小・中学校ともに明らかに不安を感じている教員が半減しており、「負担感」以上に軽減していることから、本講座には「不安感」を軽減させる要素があると考えられる。

また、図4から、「指導資料」を知っている教員については、「指導資料③」は、小・中学校ともに9割の教員が知っているが、「指導資料①、②」になると、小学校で7割、中学校でも5割程度と少なくなる。特に、中学校の方が認知されていない傾向にある。また、9割の教員が「指導資料」を知っており、図5から9割以上の教員が所属する学校で道徳科の校内研修を実施しているにも関わらず、校内研修や授業づくりの際の「指導資料」の活用については、小学校で3割程度、中学校においては2割に満たない状況であり、「指導資料」が適切に活用できていない現状が明らかになった。

本講座は、「指導資料」を基に編成し実施された講座であることから、「道徳科授業づくり講座」における「不安感」を軽減させた要素を明らかにし、「指導資料」の校内研修等での活用を提案することが道徳科の授業づくりを充実させるためには、有効なのではないかと考えた。

2 道徳科の充実に向けた手立て

第1章での調査結果・考察から、受講者の「不安感・負担感」を軽減させた要素を明らかにするため、当教育研修所で実施した「道徳科授業づくり講座」を分析し、今後の道徳科の充実に向けた手立てについて考えることとした。

(1) 講座の概要

当教育研修所で実施した「道徳科授業づくり講座」の概要は表1のとおりである。

表1 平成30年度 道徳科授業づくり講座 概要

講座名	平成30年度（小中）道徳科授業づくり講座 （小）－発問や手立ての工夫－ （中）－読み物資料の分析をととして－
ねらい	・発達段階に応じた道徳科の指導の在り方を理解する。 ・教科書や兵庫版道徳教育副読本を効果的に活用した授業づくりを理解する。
受講者	小中学校（特支含む）の教員231人（小：168人、中：63人）
期 間	平成30年8月30日（木）
内 容	① 講義「道徳の充実に向けて一道徳科における指導の在り方」 四天王寺大学 杉中康平 准教授 ・教科化で『変わること』『変わらないこと』について ・道徳科の読み物教材の特徴について ・発問づくりについて ② 実践発表「道徳科の指導の基本」（小中学校教員） ・道徳科の読み物教材の分析方法について ・対話のある授業について ③ 演習・協議「道徳科の授業づくりの充実」 ・「教材分析シート」の活用について ・模擬授業や授業実践DVDの活用について

(2) アンケート調査からの現状分析

本講座の受講により、「不安感」が軽減した受講者の人数は、小学校で168人中58人（34.5%）、中学校で63人中24人（38.1%）であった。軽減した理由の記述内容では、小中学校ともに「授業づくり、教材分析」がキーワードとして最も多く、他にも「授業の見通しが持てるようになった」、「やってみよう、やってみたい」というような積極的な言葉も見られた。主な受講者の声は表2のとおりである。

また、「負担感」が軽減した受講者の人数は、小学校で168人中54人（32.1%）、中学校で63人中17人（27.0%）であった。軽減した理由の記述内容では、小学校では「授業づくり、教材分析」がキーワードとして多く、中学校では「しっかり研修をすれば、やれると思った」「授業力をつけるチャンス」など来年度の全面実施に向けて意欲的な言葉が見られた。

表2 「不安感」軽減に役立ったと思われる項目（受講者の事後アンケートから抜粋）

- ・読み物教材の取り扱いが分かり少し不安が軽減された。
- ・教材を読み込んでしっかり35時間授業をすれば大丈夫なんじゃないかと思った。
- ・授業を組み立てるポイントが理解できたので不安がなくなった。
- ・授業の展開の仕方が少し分かったので授業に対する不安は少し減った。
- ・「教材分析シート」も大変だが活用していきたい。
- ・模擬授業のような授業に発展していけるか不安だが、イメージが湧いたので努力したい。

(3) 校内研修パッケージを考える視点

道徳科の充実に向けた手立てとして第3章での校内研修パッケージを提案するにあたり、ここまでの分析や考察、講座から得られた要素に「指導資料」から抽出した新たな要素を加え、3つの視点で整理した(表3)。

表3 道徳科の充実に向けた3つの視点

1 読み物教材の特徴を知り、中心発問の場면을焦点化する
講義では、授業で扱う「主人公が道徳的価値を自覚する読み物教材」の特徴を理解したり、主人公がある出来事をきっかけに道徳的に変化をする前(before)と後(after)で場面分けをすることで中心発問の場면을捉え、発問の在り方について考えたりして、教材分析をする上での視点を得ることができた。
2 「教材分析シート」の活用と発問の吟味をする
実践発表、演習・協議では、「教材分析シート」を活用することで児童生徒の学習活動や指導過程をイメージしやすく、授業のねらいを明確にもち、展開を考えやすくなった。また、模擬授業を通して発問を吟味し、児童生徒の姿をイメージしながら対話による授業展開についても考えたことで、授業づくりへの意欲の喚起ができた。
3 授業改善に生かす振り返りをする
「指導資料」では、「授業記録」の積極的な活用を促している。教員の授業力向上を図るためには、授業を客観的に振り返り、具体的な改善の方向性を全員で共有する必要がある。「授業記録」を研修会に参加している全員で共有し、共通の視点を基に考えることで、授業を構造的に理解し、改善点の発見につなげることができる。

3 校内研修の充実に向けて

第2章から、当教育研修所が行った「道徳科授業づくり講座」が道徳の教科化に対する「不安感」を解消するために有効であったと考えられる要素が明らかになった。1つは「教材分析シート」の活用である。その教材を使って、どのような道徳的価値について児童生徒に考えさせるのか、「教材分析シート」を使うことで、教材文の構成が整理され则认为られる。また、もう1つは、模擬授業による発問の吟味である。予想される児童生徒の反応を考える際、実際に先生役と児童生徒役を想定して授業をしてみることで、児童生徒の思考などを具体的にイメージすることができ、より深まる発問や問い返しを考えることにつながったと考える。

そこで、本章では、道徳科の授業を充実させるため、「指導資料」を活用したワークショップ型の校内研修パッケージを提案する。更に、1回の研修が教員の負担とならないよう1時間で実施可能な研修とした。

(1) 「指導資料」等を活用した校内研修

ここでは、3つの校内研修展開例を提案する。まず、＜授業前＞に行う「教材分析シート」を活用して教材分析をする研修(表4)。次に、＜授業＞での発問等を模擬授業をしながら吟味していく研修(表5)。最後に、＜授業後＞に授業を振り返るための研修(表6)である。

ア ＜授業前＞(教材分析)

まずは、授業に向け、授業前に行う教材の分析である。「主人公が道徳的価値を自覚する読み物教材」について「教材分析シート」を活用した教材分析のための研修を提案する。

【目的】「教材分析シート」を用いて、「主人公が道徳的価値を自覚する読み物教材」の構成や発問等を分析する。

【事前配布】教材文

【準備物】「教材分析シート」（A3、班に1枚）、学習指導要領解説 特別の教科 道徳編

【方法】1班3～4人で、「教材分析シート」を完成させる。

【参考資料】「指導資料①」 p 8～12 「指導資料②」 p 4～8 「指導資料③」 p 4～7

表4 研修の展開例

経過時間 (所要時間) 形態	研修の流れ	手順
※教材文を事前に読み、内容項目や主人公が道徳的価値を自覚した場面、before（－）の場面、after（＋）の場面が教材文のどのあたりになるか、個々に教材に対するおおよそのイメージを持って集まると、更に時間短縮になる。		
0分 (5分) 個人	1 研修の目的、流れを説明する 2 <u>教材分析シート</u> [1]教材を読む（骨格の確認）	教材分析シートを配り、教材文を範読する。（全員事前に読んできている場合は、範読はしない） 「指導資料①」 p 8, 9、「指導資料②」 p 5を確認しながら記入する。
5分 (10分) 個人	3 <u>教材分析シート</u> [2]構図を考える	出来事（助言）については「1」の②、自覚の上段は「1」の③の場面が入る。下段を記入し、before（上段、下段）、after（上段、下段）を記入する。 ※上段には教材の場面を、下段には主人公の心を記入する。 「指導資料①」 p 9、「指導資料②」 p 5を確認しながら記入する。
15分 (5分) 個人 ↓ 班	4 <u>教材分析シート</u> [5]主題・内容項目の確認	主人公は何を自覚したのか。主人公の心が変化したきっかけは何か。「2構図」の自覚の下段（主人公の心）から内容項目を考える。 ※必ず、学習指導要領解説の各内容項目の（1）内容項目の概要と（2）指導の要点を読む。また、小学校低・中・高学年及び中学校の発達段階で、どのように変化しているかも確認する。 「指導資料①」 p 10、「指導資料②」 p 5を確認しながら記入する。
20分 (30分) 班	5 <u>教材分析シート</u> [3]中心発問 [4]予想される反応 [6]中心発問以外の場面を考える	中心発問は、「2構図」から出来事や自覚か、after の場面などから考える。 中心発問…児童生徒に一番考えてほしい発問 補助発問…中心発問で、子どもたちの意見がねらいとする道徳的価値に向かわなかった場合、道徳的価値をさらに深く考えられるような問いを準備しておく 基本発問…中心発問（補助発問含む）以外の発問 「指導資料①」 p 9～10、「指導資料②」 p 5を確認しながら記入する。
50分 (10分) 班	6 <u>教材分析シート</u> [7]ねらいを考える <u>教材分析シート</u> [8]本時で考える道徳的価値について考える 7まとめ	これが、目指す子どもの姿となる。 「教材分析シート」にある(A)(B)(C)に従い、記入する。 学習指導要領解説の第3章第2節「内容項目の指導の観点」の「内容項目の概要」を熟読し、適切に抜き出す。 「指導資料①」 p 11、「指導資料②」 p 5を確認しながら記入する。

イ ＜模擬授業＞（発問の吟味）

続いて、「対話」により考えを深める授業を実施するために、模擬授業により発問を吟味していく方法を提案する。

【目的】「教材分析シート」を基に、中心発問の場面を中心に模擬授業を行うことで、児童生徒が考えを深めることができる発問となるよう改善する。

【事前準備】教材文、記入済みの「教材分析シート」

【準備物】教材文、「教材分析シート」拡大版（班に1枚）、
学習指導要領解説 特別の教科 道徳編、ホワイトボード

【方法】1班3～4人で先生役と児童生徒役に分かれ、模擬授業をする。

【参考資料】「指導資料①」 p 13～15 「指導資料②」 p 8～9 「指導資料③」 p 6～9

表5 研修の展開例

経過時間 (所要時間) 形態	研修の流れ	手順
※「指導資料①」 p 13～15、「指導資料②」 p 8～9、「指導資料③」 p 6～9は、事前に読み、授業の全体の流れをイメージしておく。		
0分 (5分) 班	1 研修の目的、流れを説明する 2 模擬授業の準備をする	前回作成した教材分析シートの内容項目、ねらい、発問等を確認する。班内で、先生役と児童生徒役を決める。
5分 (20分) 班	3 模擬授業① (10分) 4 振り返り (10分)	中心発問の場面に絞って、模擬授業をする。 ・先生役は、対話により児童生徒の思考が深められるよう、中心発問だけでなく、場合によっては、補助発問、問い返し等を工夫する。 ・児童生徒役は、期待する児童生徒の反応だけでなく、自校の児童生徒ならどう答えるかを想定して、答える。 模擬授業を振り返り、発問や問い返し等は適切であったか、より効果的な発問や問い返しについて、協議し、自班の発問等を再考し、改善する。 「指導資料①」 p 13、「指導資料②③」 p 8～9
25分 (20分) 他班との交流	5 模擬授業② (10分) 6 振り返り (10分)	改善した発問を基に、模擬授業を行う。先生役と児童生徒役は、交代してもよい。(3～4人で行う場合は、先生役を交代する) ・先生役は、自班に残り、他班から来た児童生徒役に中心発問の場面に絞って模擬授業を行う。 ・児童生徒役は他班へ移動し、模擬授業を受ける。 模擬授業を振り返り、発問や問い返し等を吟味する。 ※時間があれば、模擬授業を10分、振り返りを5分とし、メンバーを入れ替えて2回繰り返してもよい。
45分 (15分)	7 発問の再吟味 8 まとめ	自班に戻り、他班との協議で得たことを交流し、さらに自班の発問等を練り直す。

ウ <授業後> (授業の振り返り)

指導資料②には、「授業力の向上のためには、授業を振り返り、分析する必要がある、その材料となるのが『授業記録』である。」とある。ここでは、「授業記録」を活用し、授業を客観的に振り返る研修について提案する。

【目的】 授業を客観的に振り返り、具体的な改善の方策を考える。

【事前準備】 「授業記録」(「指導資料②③」 p 10「授業記録」の取り方参照)

【準備物】 教材文、指導案の拡大版(もしくは教材分析シート)、「授業記録」、模造紙(班に1枚)、付箋(水色、黄色、桃色)、サインペン(1人1本)、マジック

【方法】 3～4人班で、気付いたことを付箋に書き出し、協議しながら模造紙にまとめていく。

まとめ方…指導案拡大シート、概念化シート※、マトリクス法※等を活用する。

(班によってまとめ方を変えても良い)

※概念化シートを授業分析に用いる際は、縦軸を「プラス面(よかった点、参考になった点)」と「マイナス面(改善すべき点、問題点)」、横軸を「児童・生徒」と「教師」とする。付箋を該当する4つのゾーンに振り分けながらKJ法による整理・構造化を行う。¹⁾

※マトリクス法(マトリクスとは、 $n \times n$ の表のこと)を授業分析に用いる際は、 3×3 の表を用いることが多い。行の部分を「成果やよかった点」「疑問や問題点」「助言や改善点」とし、列の部分は授業分析の視点とする。付箋をそれぞれのマスに置き、整理・構造化を行う。²⁾

【参考資料】 「指導資料②」 p 10～23 「指導資料③」 p 10～11

表6 研修の展開例

経過時間 (所要時間)	研修の流れ	手順
※「指導資料②」p12(「指導資料③」p11)『授業記録』を分析する視点、「本時の授業記録」を事前に読み、事後研究で協議する『授業記録』を分析する視点で、授業を参観する。		
0分 (5分)	1 研修の目的、流れを説明する	今回は、『授業記録』を分析する視点のどの視点で授業を振り返るか確認する。(協議が広がりすぎないように、視点をあらかじめ絞っておく)
5分 (5分)	2 個人での振り返り	3色の付箋に、あらかじめ決めた視点に沿って、授業を参観し(「授業記録」から)気付いた点を書いていく。(1枚に1つの事項を簡潔に単文で、サインペンで書く)(水色:成果や良かった点、黄色:課題や疑問点、桃色:助言や改善策)※改善策は無理に書かなくても良い。
10分 (15分)	3 班内交流	2で書いた付箋を、班ごとに話をしながら模造紙に貼りだし整理していく。(同じ意見の付箋は重ねて貼り、似た内容は近くに貼ってグループ化し、小見出しを書く)
25分 (20分)	4 班内協議	3で見えてきた課題を絞り、児童生徒がねらいとする道徳的価値についてより深く考えられるような中心発問や補助発問、問い返し等について、班で改善策を考え、模造紙に書き込んでいく。
45分 (15分)	5 全体交流 6 まとめ	自班で考えた改善策(中心発問や問い返し等)を交流する。

(2) 校内研修の更なる充実に向けて

「指導資料」を活用した校内研修の進め方については、(1)で示した。しかしながら、受講者アンケートからも、特に小学校教員の「道徳の時間」の教科化に対する「負担感」は大きい。校内で、「指導資料」の活用が浸透してくれば、更に研修時間を短縮したり、学年ごとや少人数で実施したりすることも可能になると考える。詳しくは、リーフレットに掲載するが、事前に教材分析や発問、授業の課題等を個々に考え、記入したものを持ち寄ることにより、各30分程度で教材分析と発問の吟味を行い、授業後に30分程度振り返るというサイクルで授業ごとに取り組むことも容易になると考える。

おわりに

本研究では、当教育研修所が実施する「道徳科授業づくり講座」を受講した小中学校教員を対象とした調査から、道徳の教科化における課題を把握し、授業づくりへの「不安感」を解消することで課題解決に向けた方策を研究してきた。

今回の調査では、わずかではあるが「これまで自分がやってきたことをすれば良いということが分かった。」「授業づくりのポイントが分かったことで、評価につながる授業のイメージが持てた。」等の記述も見られた。道徳科の授業力向上のためには、「指導と評価の一体化」を進めることが重要である。今後は、これらを踏まえた道徳科の授業づくりの充実に向けて、「指導資料」を活用した校内研修パッケージを発信していきたい。

注)

1) 村川雅弘、『ワークショップ型教員研修はじめの一步』, 教育開発研究所, 2016, p39

2) 同上, p40

《参考文献》

兵庫県教育委員会「指導資料『特別の教科 道徳』全面実施に向けて(平成27年度版)」, 2016

兵庫県教育委員会「指導資料『特別の教科 道徳』全面実施に向けて②(平成28年度版)」, 2017

兵庫県教育委員会「指導資料『特別の教科 道徳』全面実施に向けて③(平成29年度版)」, 2018

小学校学習指導要領(平成29年度告示)解説 特別の教科 道徳編, 2017

中学校学習指導要領(平成29年度告示)解説 特別の教科 道徳編, 2017

はじめの一步！

道徳科の授業の充実に向けて

このリーフレットでは、兵庫県教育委員会作成指導資料『特別の教科 道徳』の全面実施に向けて(H27年度版) (以下「指導資料①」)『特別の教科 道徳』の全面実施に向けて②(H28年度版) (以下「指導資料②」)『特別の教科 道徳』の全面実施に向けて③(H29年度版) (以下「指導資料③」)を活用した研修を紹介しています。ここで提案する研修形態を基に、各学校の実態に合わせてご活用ください。

30分でできる道徳科校内研修

「指導資料」を活用した研修に慣れてきたら、少人数(3～4人)で空いている時間を利用して、授業づくりをしていきましょう。事前に、一人一人が準備をしてから集まれば、焦点を絞って協議をすることができます。協議の時間は30分！

＜授業前＞(教材分析)

【事前準備】教材文、「教材分析シート」(記入しておく)、学習指導要領解説 特別の教科 道徳編

【方 法】各自が作成した「教材分析シート」を基に、教材を構造的に捉え、発問を吟味する。

【参考資料】「指導資料①」 p 8～12 「指導資料②」 p 4～8 「指導資料③」 p 4～7

経過時間 (所要時間)	研修の流れ	手順
※教材文を事前に読み、各自で「教材分析シート」を作成し、教材分析をして集まることで、時間短縮を図る。		
0分 (5分)	1 教材分析シート [1] 骨格 [2] 構図 [5] 主題・内容項目の確認	主人公は何を自覚したのか。主人公の心が変化したきっかけは何か。教材の構図と内容項目を確認する。 ※必ず、学習指導要領解説の各内容項目の(1) 内容項目の概要と(2) 指導の要点を読む。加えて、小学校低・中・高学年及び中学校の発達段階で、どのように変化しているか確認する。
5分 (25分)	2 教材分析シート [3] 中心発問 [4] 予想される反応 [6] 中心発問以外の場面を考える	中心発問、補助発問、基本発問を吟味する。 中心発問・・・児童生徒に一番考えてほしい発問 補助発問・・・中心発問で、子どもたちの意見がねらいとする道徳的価値に向かわなかった場合等、道徳的価値をさらに深く考えられるような問いを準備しておく 基本発問・・・中心発問(補助発問含む)以外の発問
※「7 ねらい」、「8 本時で考える道徳的価値」については、協議したことを基に、各自で記入する。		

【研修のポイント】

「主人公が道徳的に変化する読み物教材」の場合、「教材分析シート」を使って教材を構造的に捉え、その教材のねらいとする道徳的価値が何かを理解することができます。

<模擬授業>（発問の吟味）

【事前準備】教材文、作成済みの「教材分析シート」

【準備物】教材文、作成済みの「教材分析シート」拡大版（改善案を書き込む）、
学習指導要領解説 特別の教科 道徳編、ホワイトボード

【方法】先生役と児童生徒役に分かれ、模擬授業をする。

【参考資料】「指導資料①」 p 13～15 「指導資料②」 p 8～9 「指導資料③」 p 6～9

経過時間 (所要時間)	研修の流れ	手順
※「指導資料①」 p 13～15、「指導資料②」 p 8～9、「指導資料③」 p 6～9は、事前に読み、授業の全体の流れをイメージしておく。模擬授業で、どの中心発問をするかを絞っておく。		
0分 (30分)	1 模擬授業 (10分)	中心発問の場面に絞って、模擬授業をする。 ・先生役と児童生徒役に分かれる。(途中で交代しても良い) ・先生役は、対話により児童生徒の思考が深められるよう、中心発問だけでなく、場合によっては、補助発問、問い返し等を工夫する。 ・児童生徒役は、期待する児童生徒の反応だけでなく、自校の児童生徒ならどう答えるかを想定して、答える。
	2 振り返り (5分)	模擬授業を振り返り、発問や問い返し等は適切であったか、より効果的な発問や問い返しについて協議し、発問等を再考し、改善する。
	3 上記1、2を繰り返す。(15分)	「指導資料①」 p 13、「指導資料②③」 p 8～9 改善した発問や問い返しを基に、再度模擬授業をし、更に発問等を再考し、改善を図る。

【研修のポイント】

中心発問での児童生徒の反応を予想し、先生役・児童生徒役に分かれて模擬授業を行うことで、考えを深めることができる中心発問や問い返しができているかを確認することができます。

<授業後>（授業の振り返り）

【事前準備】「授業記録」を基に、協議する分析する視点に沿って、気付いたことを付箋に書き出ししておく。

【準備物】教材文、指導案の拡大版（もしくは教材分析シート）、「授業記録」、模造紙（班に1枚）、
記入済み付箋（水色、黄色、桃色）、サインペン（1人1本）、マジック

【方法】各自が書いてきた付箋を基に、協議しながら模造紙にまとめていく。

まとめ方…指導案拡大シート、概念化シート¹⁾、マトリクス法²⁾等を活用する。

（班によってまとめ方を変えても良い）

1) 概念化シートを授業分析に用いる際は、縦軸に「プラス面（よかった点、参考になった点）」と「マイナス面（改善すべき点、問題点）」とし、横軸に「児童・生徒」と「教師」とする。授業観察によって記述された付箋を該当する4つのゾーンに振り分けながらKJ法による整理・構造化を行う。*

2) マトリクス法（マトリクスとは、 $n \times n$ の表のこと）を授業分析に用いる際は、 3×3 の表を用いることが多い。行の部分を「成果やよかった点」「疑問や問題点」「助言や改善点」とし、列の部分は授業分析の視点とする。授業観察によって記述された付箋をそれぞれのマスに置き、整理・構造化を行う。*

※1) 2)とも「村川雅弘著『ワークショップ型教員研修はじめの一步』」による。

【参考資料】「指導資料②」 p 10～23 「指導資料③」 p 10～11

経過時間 (所要時間)	研修の流れ	手順
※「指導資料②」 p 12（「指導資料③」 p 11）『授業記録』を分析する視点を確認してから授業を参観する。3色の付箋に、授業を見て（「授業記録」から）気付いた点を書いておく。（1つの事項につき1枚の付箋に簡潔に単文で、サインペンで書く）（水色：成果や良かった点、黄色：課題や疑問点、桃色：助言や改善策） ※改善策は無理に書かなくても良い。 【参考】「授業記録」を分析する視点(例) ① 子どもたちは、ストーリーを正しく捉えることができたか。 ② 先生の問いが明確に子どもに伝わっていたか。 ③ 先生は、子どもの発言をきちんと聞いていたか。 ④ 先生の問い（発問）は、ねらいにせまるために本当に有効な問い（発問）であったか。 ⑤ 先生の問い返しは、より深く考えるために有効であったか。 ⑥ 子どもたちは、道徳的価値について多面的・多角的に考え、発言することができたか。 ⑦ 子どもたちは、道徳的価値の理解を深めることができたか。 ⑧ 子どもたちは、自分自身との関わりの中で、自己の（人間としての※）生き方について考えることができたか。※中学校		
0分 (15分)	1 意見交流	各自で書いてきた付箋を、理由等を添えて話しながら模造紙に貼りだし整理していく。（同じ意見の付箋は重ねて貼り、似た内容は近くに貼ってグループ化し、小見出しを書く）
15分 (30分)	2 協議	1で見えてきた課題を絞り、児童生徒にねらいとする道徳的価値についてより深く考えられるような中心発問や補助発問、問い返し等について、改善策を考え、模造紙に書き込んでいく。
※複数の班で行う場合は、模造紙を貼りだし、研修後、各自閲覧による交流を行う。		
【研修のポイント】 「授業記録」を基に、分析の視点に沿って授業を振り返ることで、客観的に授業を見直し、ねらいに迫るための改善策を具体的に考えることができます。		

道徳科授業づくりQ & A

1 授業について

Q 1：教材の分析の仕方がわからない。	
A 1：※主人公が道徳的価値を自覚する教材の場合	「指導資料①」 p 8～12 IV章道徳科の授業の実際 1教材（資料）の読み（分析） 「指導資料②」 p 4～7 II章道徳の授業力向上のために 授業前 教材の分析 「指導資料③」 p 4～5 第2章道徳科の授業の充実に向けて （1）読み物教材の分析＜授業前＞
Q 2：授業をどう展開させたらいいかわからない。	
A 2：「指導資料①」 p 13～15 IV章道徳科の授業の実際	2ねらいに迫るために、3基本的な授業の流れ 「指導資料②」 p 8～9 II章道徳の授業力向上のために 授業 「指導資料③」 p 6～9 第2章道徳科の授業の充実に向けて （2）道徳の授業展開＜授業場面＞ （3）「対話」により、深める授業を目指して＜授業場面＞ 学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（小学校：p 78～86、中学校：p 76～85） 第4章指導計画の作成と内容の取扱い 第2節道徳科の指導

Q 3 : 教師の価値の押しつけや期待する考えを公表させるような授業になってしまう。
A 3 : <授業前> 「指導資料①」 p 13 IV章道徳科の授業の実際 2ねらいに迫るために 「指導資料②」 p 8～9 II章道徳の授業力向上のために 授業 「指導資料③」 p 8～9 第2章道徳科の授業の充実に向けて (3)「対話」により、深める授業を目指して<授業場面> <授業後> 授業の振り返りをしましょう。 「指導資料②」 p 10～20 III章効果的な授業後の研修のために 「指導資料③」 p 10～11 第2章道徳科の授業の充実に向けて (4) 授業記録の活用 <授業後>
Q 4 : 内容項目を絞り切れない。
A 4 : 「指導資料①」 p 8～12 IV章道徳科の授業の実際 1教材(資料)の読み(分析) 「指導資料②」 p 4～7 II章道徳の授業力向上のために 授業前 教材の分析 「指導資料③」 p 4～5 第2章道徳科の授業の充実に向けて (1) 読み物教材の分析<授業前> 学習指導要領解説 特別の教科 道徳編(小学校: p 26～71、中学校: p 24～69) 第3章道徳科の内容 第2節内容項目の指導の観点 各内容項目の(1)内容項目の概要と(2)指導の要点を読み、確認する。加えて、小学校低・中・高学年及び中学校の発達段階で、どのように変化しているか確認する。

2 評価について

Q 5 : 道徳科の評価の充実に向けて、どのように取り組んだらいいかわからない。
A 5 : 「指導資料②」 p 12～ III章効果的な授業後の研修のために 「授業記録」を分析する視点IV章「授業記録」(例) 「指導資料③」 p 12～ 第3章道徳科の評価 (1)道徳科の評価とは p 15 (2)評価に向けて見取るための工夫 p 16～ (3)学習活動のまとめのプロセス(例) p 19 (4)評価に当たって p 20～ 「評価に向けた資料例」 学習指導要領解説 特別の教科 道徳編(小学校: p 109～114、中学校: p 111～116) 第5章道徳の評価 第2節道徳科における児童の学習状況及び成長の様子についての評価

3 校内研修について

Q 6 : 校内研修を充実させたいが、どのように計画し取り組んだらいいかわからない。
A 6 : ・1年間の研修計画 「指導資料①」 p 16～17 V章授業力アップのための工夫 1校内研修の進め方 ・授業の振り返り 「指導資料②」 p 12～20 IV章「授業記録」例 「指導資料③」 p 24 スーパースキルアップ支援プログラム実施校における取組